

公正かつ誠実な事業活動

当社グループは、全ての法令、行動規範およびその精神を遵守し、高い倫理観を持ってコンプライアンスを推進するとともに、事業に関連する内外のリスクを適切に管理する活動を推進し、継続的な企業価値の向上を目指します。

グループ各社では、コンプライアンス委員会とリスク管理委員会を設置し、様々な対策を講じて意識の向上を図る等、グループでコンプライアンスおよびリスクマネジメントの推進を行い、腐敗防止に取り組んでいます。

コンプライアンス

基本方針

企業は、公正かつ自由な競争のもと、社会に有用な付加価値および雇用の創出と自律的で責任ある行動を通じて、持続可能な社会の実現を牽引する役割が求められています。キョーリン製薬グループは、企業理念のもと、国の内外を問わず、関係法令、国際ルールおよびその精神を遵守し、高い倫理観を持って行動します。

企業行動憲章とコンプライアンス・ガイドライン

高い倫理観を持って企業行動を展開するために、2006年8月に「キョーリン製薬ホールディングス企業行動憲章」と「コンプライアンス・ガイドライン」を制定し、2019年4月には持続可能な社会の実現に向けた対応を加味して改定を行い取り組んでいます。さらに月1回開催するコンプライアンス委員会を設置する等、コンプライアンスを推進する体制を構築しています。

教育研修

企業倫理およびコンプライアンスの理解・浸透を図るべく、社内教育を行っています。

- ①コンプライアンス担当部署や各部門のコンプライアンス推進担当者が中心となり、全社的な階層別教育(新入社員教育、新任管理職研修等)や職能教育等において、企業倫理およびコンプライアンスに関する教育を実施するとともに、役員および従業員に対する理解浸透と業務への反映を図っています。
- ②6月と11月をコンプライアンス強化月間に設定し、部署および従業員ごとに定めた取り組みを行うことで、グループ全社で浸透、理解徹底に努めています。

内部通報制度

当社グループは、「企業倫理ホットライン」を設置し、企業倫理および法令・規則等への対応に関する問い合わせ・相談・連絡、また不正やコンプライアンス違反の疑いがもたれる公益通報等の連絡を社内および外部窓口で受け付けています。運用にあたっては、公益通報者の秘密保持を徹底し、個人のプライバシーを尊重するとともに、通報者が不利益を受けることがないようにしています。(通報件数)2020年度14件

医療機関等との関係の透明性に関する取り組み

製薬企業の使命は、優れた医薬品を継続的に開発し、安定的に供給することにより、世界の人々の健康と福祉に貢献する価値ある存在として、「患者参加型医療」に重要な役割を担うことです。この使命を果たすためには、製薬企業と大学等の研究機関・医療機関等との連携は不可欠であり、製薬企業と利害関係が想定される人たちとの関わり(利益相反)について適正に管理されることが求められます。

このような状況の中、当社グループでは、「企業活動と医療機関等の関係の透明性に関する指針」「企業活動と患者団体の関係の透明性に関する指針」を定めています。本指針に従い、医療機関、患者団体等に対する資金提供の情報をウェブサイトを通じて公開しています。

リスクマネジメント

当社グループ各社はリスクの発生予防に係る管理体制の整備および、発生したリスクへ対応するために月1回開催する「リスク管理委員会」を設置し、その内容を定期的に経営会議へ報告しています。リスク管理委員会ではグループ全体のリスク管理の取り組みを横断的に統括するとともに、予想されるリスクの洗い出しとリスクの軽減、未然防止体制の構築や、やむなく発生したリスクによる損害を最小限にするため、当該部署に対し、必要な措置をとらせる等の活動を推進しています。問題が発生した場合は、適時担当執行役員に報告し、自然災害をはじめ事業に重大な影響を及ぼすリスクが発生した場合は、社長を本部長とする「有事対策本部」を設置し危機管理にあたります。

事業のリスク等

当社グループにおいては、関係法令の大幅な改定や医療制度改革、市場環境の急激な変化、大規模な自然災害等の要因により、経営成績および財務状態に重要な影響を与えるリスクがあると認識しています。当該リスクのうち、投資家の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には以下のようなものがあります。当社グループでは、これらのリスクに関し、組織的・体系的に対処することとしていますが、影響を及ぼすリスクや不確実性はこれらに限定されるものではありません。

項目・具体的リスク	主な対応
研究開発に関するリスク <ul style="list-style-type: none"> 開発候補品において予期せぬ副作用が発現する、期待する効果が得られない等の理由による開発遅延や中止 	<ul style="list-style-type: none"> 重点研究領域の明確化による効率的な研究開発 自社創業に加え、国内外の製薬企業・アカデミア・ベンチャー企業との連携(オープンイノベーション)
医療制度改革に関するリスク <ul style="list-style-type: none"> 予測可能な範囲を超えた薬価制度および医療制度改革の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 新医薬品の普及最大化 グループ生産機能の集約、全体最適化によるコスト構造の変革
安定供給に関するリスク <ul style="list-style-type: none"> 製造活動や仕入れの遅延または停止 品質問題等による製品回収 	<ul style="list-style-type: none"> 十分量の製品および原材料の確保 重要原料の複数供給元からの確保
他医薬品との競合に関するリスク <ul style="list-style-type: none"> 他社製品との競合 後発医薬品の参入激化 	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸器科・耳鼻科・泌尿器科を中心とした特定領域での高いプレゼンスの確立 オーソライズド・ジェネリックの発売等、当社グループの特色を活かした事業展開
ITセキュリティおよび情報管理に関するリスク <ul style="list-style-type: none"> システム不備やコンピューターウイルス、サイバー攻撃等による業務妨害や情報流出 	<ul style="list-style-type: none"> セキュリティソフトの導入や定期的なバックアップ実施 社員への各種情報管理規程の周知徹底、継続教育
知的財産権に関するリスク <ul style="list-style-type: none"> 第三者からの知的財産権の侵害、または他社製品の特許等、知的財産への抵触による事業の中止・係争 	<ul style="list-style-type: none"> 知的財産権の厳格管理等 第三者からの侵害に関する継続的なモニタリング
訴訟に関するリスク <ul style="list-style-type: none"> 知的財産権、製造物責任(PL法)、環境保全、労務等に関する訴訟 	<ul style="list-style-type: none"> 専門家の助言、協議による対応
アライアンスに関するリスク <ul style="list-style-type: none"> 提携関係の解消による経営成績等への影響 	<ul style="list-style-type: none"> 提携先の販売戦略・研究開発動向を踏まえた関係性の向上による、継続的提携関係の維持・発展
大規模災害等に関するリスク <ul style="list-style-type: none"> 自然災害、事故およびインフルエンザ、新型コロナウイルス等のパンデミック発生 想定を超える新型コロナウイルス感染症拡大による医薬品市場のさらなる縮小、研究開発スケジュールの遅延、原材料調達等の困難 	<ul style="list-style-type: none"> 大規模災害等に備えた対応マニュアルの整備、訓練の実施 新型コロナウイルス感染症対策として、在宅勤務や時差出勤、営業活動の自粛等を実施し、社員の健康に配慮した上での事業継続
金融市場の変動に関するリスク <ul style="list-style-type: none"> 為替相場、金利水準や株式市況の変動 	<ul style="list-style-type: none"> 分散投資等
副作用発現に関するリスク <ul style="list-style-type: none"> 市販後における予期せぬ副作用の発現による使用制限や販売中止 	<ul style="list-style-type: none"> 医薬品の適正使用に資する情報提供・収集の実施等
環境問題に関するリスク <ul style="list-style-type: none"> 万が一の事故等による関係法令等の違反発生 環境汚染等による施設の一時閉鎖やその対策、法的責任等の発生 	<ul style="list-style-type: none"> 関係法令等の遵守および高い自主基準の設定 環境マネジメントシステムと労働安全衛生マネジメントシステムを統合し、グループ全体でEHS活動を推進